

# ピアノ学習における読譜に対する 注意力についての一考察 (その2)

蔵 清 蔵

ピアノ学習者における普遍的な欠陥である読譜に対する不注意は、一体何が原因しているかを考察するため、筆者は、前回の報告(1)において、若干の検討をこころみた。

それによると、大要次のごとき結論がえられた。

すなわち、学習者の読譜に対する不注意には、それ以前の問題が多く考えられる。つまり、ピアノ学習を、一般の学校教科とおなじ学科と考えないで、指導者自身も、学習者も、またそれを取りまく全体的環境(いいかえれば、わが国民のもつ思想内容から影響され、軽視された音楽学習観)にもわざわざいされている大きな欠陥ともいえるべき、読譜に対する不注意の頻出が発生していると考えられるのである。

また、不注意からくる時間と精力の龐大な損失も指摘した。

しかしながら、前回の報告においてあきらかにしたように、注意力判定のために使用した手先の巧緻性をテストする心理的諸検査の結果と、ピアノレッスンの成績は、かならずしも一致しないものである。

この原因は、機械的判定には、ある程度の客観性がみとめられるとしても、ピアノレッスンの成績の優劣は、学習者の背後に存在する諸条件により、決定されるものであって、表面的な出来によって、一義的には決断しえないきわめて複雑な問題が存在するものである。

すなわち、一般に、音楽学習者の優劣の評価は、学習事態における「出来・不出来」といった現象的(phenotypical)な事実をもってなされる場合が多いのであるが、実際には、学習者の現在を、かくあらしめた発生的(genotypical)

な要因によって左右されるものである。換言すれば、この生徒が上手であるとか、下手であるとか素質があるかないかという事実の背後には、本人の音楽学習への動機づけのつよき、本人をとりまく家庭環境・遺伝的諸要因等が総合的に作用していると考えられるのである。

ここにおいて、今回の第2報告においては音楽学習者の能力、素質として評価される潜在的条件をいくつかの側面よりとらえ、この結果にもとづいて、読譜に対する注意力の優劣を再検討してみることにする。

一般に、ものみかたは、単に読譜にかぎらず、あらゆる先入観をすてて、明鏡止水とでもいうか、ものあるがまゝをみてとる態度をとることが理想といえるであろう。

ようやく仕上げが完了したと思うところに、楽譜の誤読に突然気がついて驚くことがある。それは、楽譜を何十回も見ているが、実際は本当にみていなかった、あるいはみえなかったことに気がつくのである。何十回も同じ楽譜をみて学習したのに、あるとき、自己の誤謬に気がつけば、今までみえなかった、符号・記号が存在することがわかる。

生理的な意味での眼は、正常であり健康であるにもかゝらず、心理的にはみえなくなるのである。

同じ楽譜を何回もみて学習し、完成する頃に、やっとその誤謬を見いだすことは、おどろきでもあり、嬉しいことでもあるが、それまでの損失は莫大なものとなるのである。

しかし、なぜ正しくみえなかったのかを、考えてみると、おそらく頭の中で別な音形が先に入っていて、現在、みる眼のはたらきを障害し

ていたものと判断される。このことはまた、暗譜においても、おなじことが言えるのである。

楽譜を見ずに弾いているとき、頭の中で譜を、たどらねばならぬのに、指だけが反射的にうわすべりして、しらないうちに終わっていた、というようなことがある。

こんな状態で弾いていると、何か一寸したことに気をとられると、先へも、あとへもいけずに何もわからなくなってしまうものである。

頭の中にはなにもなく、ただ指先が反射運動をしていて無意識で、頭脳からの命令に従っていないのである。また命令に従ったとしても、指先に伝わらないで表面的に、意識を通さずに自己自身を喪失した状態で弾いているわけである。

本当の暗譜というものは、まず楽譜をみてからくりかえす、つまり練習し学習するのである。

もちろん音質やその他、強弱や、左右のバランスなどととも音を耳で覚え、楽譜をみると、そのとおりに指が動くようになる。

そうなったころ、目をつむると脳裏に楽譜が生き生きとうかんでくるし、何段目には何の音があって、あの記号が入っていて、どんな印がついているかが、判然とするようになり、しかも本の何頁に、学習中に記入したインクのあとがあるかとか、どの頁に破損個所があるかまで知りつくすものである。

言いかえれば、頭脳の中に楽譜があたかも写真のごとくにうつされているようなものである。このような状態にあって演奏者ははじめて自己を失なわない演奏ができるのである。

さきにも述べたように、はじめは楽譜——作曲家——に対する絶対的な服従者でなければならぬ。暗譜してしまえば、自分のものであるし、自分の精神を曲にもりこんで、なかば私有物にすることができるものであるがそれが、ふしぎにも守れないのは、先入意識が非常に強くあらわれるためであろうか、このような点に気づくとき人間はよほど服従心に欠けているものといえよう。

たとえば、信号機のある交叉点では、よほどの老人か、幼児でないかぎり——意識的に反則

する者は論外であるが——信号をよく見、規則をよく守るものである。それは信号をよくみて規則をまもることは、個人の生命にかゝわる問題であり、そのために非常な注意深さをあらわすものである。

このように、なにもか真剣にならねばならぬような気構の状態になるよううらづけが、読譜においても必要であろう。

## 今回の調査研究

以上のごとき観点から、今回の研究においては、前回の調査においての、被験者として使用した同一の34名に対し、さらに、本人の家庭環境、および、ピアノ学習に対する意欲、遺伝的要因、将来への希望・進路、父兄の熱意等について調査し、音楽能力の評価の資料として、再検討することにした。質問紙は次のとおりである。

### I 本人のピアノ学習に対する心構えの調査 (アンケートAによる)

#### アンケート A (児童・生徒を対象とするもの)

- あなたが音楽レッスンはじめたのは、どのような理由からですか。
  - 人にすすめられた、すすめた人はだれですか  
( )
  - 自分でやりたいとおもったので
  - 友達が習うというので自分もやりたくなったので
  - ただ何となく
  - そのほかの理由 ( )
- あなたがピアノレッスンを現在うけているのは次の理由のどれにあたりますか。
  - 将来音楽を職業としたいから
  - 音楽を職業とするかどうかは、わからないが、音楽関係の学校へ進みたいと思っている。
  - これからも、ピアノを趣味教養としたいから〔この場合、あなたが将来なりたいと思っている職業は何ですか〕 ( )
  - ピアノを習っていると、器用になったり、感覚がするどくなって、ほかの勉強もよくできるようになると思うから
  - ピアノを習っていると、おちつきができたたり心がゆたかになると思うから

- f 父や母や、きょうだいがやれというから  
 g その他(理由: )
3. あなたは、ふつうどのくらい音楽の練習をしていますか。  
 a 毎日やっている\_\_\_\_時間\_\_\_\_分くらい  
 b ときどきやっている\_\_\_\_日に1回くらい\_\_\_\_時間\_\_\_\_分くらい  
 c ほとんどしない
4. あなたのお父さんやお母さんは音楽に理解があると思いますか。  
 お父さんの場合  
 a 大へん理解がある  
 b ある  
 c ふつう  
 d あまりない  
 e 全々いな  
 お母さんの場合  
 a 大へん理解がある  
 b ある  
 c ふつう  
 d あまりない  
 e 全々ない
5. ピアノの練習にあたって、とくに先生に注意されたことをまもるように心がけていますか。  
 a いつも心がけている  
 b ときどき忘れる  
 c あまり気にしない  
 d 全々気にしない
6. 先生があなたに注意されていることのうち、とくに大切と思うことを、大切な順に3つあげなさい。  
 1. ( ) 2. ( ) 3. ( )  
 なまえ\_\_\_\_学校\_\_\_\_男女

次に使用したのは本人の家系の音楽的環境とピアノ学習に対する両親の心構えの調査(アンケートBによる)である。

### アンケート B (両親用)

I あなたの家系(この場合は、本人を中心として祖父母、父母、兄弟姉妹、おじ、おば、いとこの範囲をさし必ずしも同居していなくてもよい)について、次のことをお答え下さい。

1. 音楽を職業としている人がいますか。  
 a いない  
 b いるいる場合

例(祖父)(尺八指南)(尺八)  
 (父)(大学教授)(ピアノ)  
 誰ですか 職業名 専門  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )

2. 音楽を職業とはしないが、音楽関係の学校を卒業または在学中の人がいますか。

- a いない  
 b いる いる場合  
 例(従姉)(東西音楽大学)(声楽)  
 誰ですか 学校名 専攻  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )

3. 音楽を職業としたり、音楽関係の学校に在学したり、卒業したのではないが、音楽が非常に得意(又は好き)な人がいますか。

- a いない  
 b いるいる場合  
 例(兄)(〇〇大学(軽音楽部員)(ギター)  
 誰ですか どんなことで 楽器  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( )

4. あなたの家系で、音楽がとくにきれいな人がいますか。

- a いない  
 b いる いる場合  
 例(弟)(カメラ)  
 誰ですか その人の趣味  
 ( ) ( )  
 ( ) ( )  
 ( ) ( )

II あなたの子供さんについておたずねします。

現在ピアノレッスンをうけさせているのは

1. 将来音楽を職業とさせたいから  
 2. 音楽を職業とさせるかどうかは、わからないが、音楽関係の学校へ進ませたい  
 3. これからも音楽を趣味、教養としてやらせたいから  
 4. ピアノを習わせると、器用になったり、感覚が鋭敏になったりして、ほかの学科もよくできるようになると思うから  
 5. ピアノを習わせていると、子供におちつきが

ピアノ学習における読譜に対する注意力についての一考察（その2）

できたり、情操教育になるから

6. 3.4.5.の場合は、お子さんを将来どういう方面に進ませたいと思いますか。

進学の場合（ ） 職業（ ）

7. その他

Ⅲ あなたの子供さんには、どの位の練習をさせたらよいと思っていますか。

1. 毎日させたい（ ）時間（ ）分位
2. 時々させたい（ ）日に1回くらい（ ）時間（ ）分
3. ほとんどしなくてもよい

Ⅳ あなたのご家族（同居の方）の皆さんは、学校時代の音楽の成績は大体、次のどれにあたると思いますか。

1. 祖父
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
2. 祖母
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
3. 父
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
4. 母
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
5. ( )
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
6. ( )
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手
7. ( )
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手

8. ( )
  - 1 大へんよかった
  - 2 よかった
  - 3 中くらい
  - 4 やゝ下手
  - 5 大へん下手

V. あなたのお宅にある楽器をすべて、書いて下さい。

例（ピアノ）（本人と妹）

楽 器 名 主に使っている人

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

( ) ( )

Ⅵ 次にあげたもののうち、お宅にある品物にいくつか○をつけて下さい。

1. 電気冷蔵庫
2. 電気掃除機
3. ラジオ
4. テレビ
5. ステレオ
6. プレーヤー
7. 扇風機
8. テープコーダー
9. クーラー
10. カメラ
11. ミシン
12. 自動車

結果 および 考察

上述した結果を表示すれば次のとおりである。

表1 アンケートAのIの結果

レッスンをはじめた理由	人 員	%
a 人にすすめられ	11	32.4
b 自分でやりたい	18	13.0
c 友達がやるので	5	3.0
d ただ何となく	0	0
e その他の理由	0	0

表2 Aの2の結果

現在レッスンをうけている理由	人 員	%
a 音楽を職業としたいから	8	23.5
b 職業不明だが音楽学校へ	10	29.4
c 趣味教養としたいから	11	32.4
d 器用、鋭敏、学業向上のため	1	2.9
e 落ちつき心豊かになるから	2	5.9
f 父母兄弟にむりにすすめられて	0	0
g その他の理由	2	5.9

表3 Aの3の結果

練習量	人員	%
a 毎日やっている	33	97.1
b ときどきやっている	1	2.9
c ほとんどしない	0	0

表4 Aの3練習時間の結果

時間	人員	時間	人員
15分	1	2時間	9
30分	4	2時間30分	2
1時間	7	3時間	1
1時間30分	7	3時間30分	2

表5 Aの4の結果

父の理解			母の理解		
	人員	%		人員	%
a 大いにある	3	8.8	a 大いにある	3	8.8
b ある	8	23.5	b ある	19	55.9
c ふつう	19	55.9	c ふつう	11	32.4
d 余りない	4	11.8	d 余りない	1	2.9
e 全々ない	0	0	e 全々ない	0	0

表6 Aの5の結果

注意に対する心構え	人員	%
a いつも心がける	3	8.8
b 時々忘れる	27	79.4
c 余り気にしない	4	11.8
d 全々気にしない	0	0

表7 A6の1の集計

楽譜を正しくみる	10人
指の形に	6
手首の事	4
速度の事	4
音の明瞭	2
指使い	2
ハノン	2

表8 A6の2

楽譜を正しくみる	7人
指使い	6
テンポ	5
ハノン	4
毎日練習	3
落付き	2
アレンジ	1
曲想	1

表9 A6の3

音の明瞭	5人
指の形	4
落付き	4
楽譜を正しくみる	3
毎日練習	3
テンポ	3
ペダル	1
表現	1

表10 アンケートBの1の結果音楽を職業・趣味などとしている人

	いない		いる	
	人数	%	人数	%
1. 音楽を職業としている人	32	94.1	2	5.9
2. 音楽学校在学、卒業の人	34	100.0	0	0
3. 専門でないが非常に得意、好き	20	58.8	14	41.2

表11 音楽が得意または好きな人

父母	10
兄弟	10
おじおば	4

表12 BのIの4の状況

	いない		いる (おいプロレス)	
	人数	%	人数	%
4. 家系内に音楽がとくにきらいな人がいますか	33	97.1%	1	2.9%

表13 Bの2の状況

1. 音楽を職業とさせたい	6	26.1%
2. 将来不明だが音楽学校へ	2	8.7
3. 趣味、教養としたい	9	39.1
4. 器用、鋭敏、他の学力向上も	0	0
5. 落ち付き、情操教育に	3	13.0
6. (3.4.5.の場合将来の進路)	(12)	(52.2)
7. その他	3	13.0

表 13の3, 4, 5の希望する進路の内訳は次のとおりである。

薬学方面	1
語学方面	1
医学方面	1
不明不答	9

また表14の7 (その他) の回答3名の理由は  
根気をつづけさせるため 1  
本人がのぞむのでいたし方なく 2

ピアノ学習における読譜に対する注意力についての一考察 (その2)

表12 Bの3の練習量の状況

	人員		60分		90分		120分		150分		180分		210分	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1.毎日させた	32	94.1	8	23.5	5	14.7	13	38.2	2	5.9	2	5.9	4	11.8
2.時々させた	0	0												
3.ほとんどしなくてもよい	2	8.7												

表13 Bの4の集計

	大へんよかった		よかった		中くらい		やゝ下手		大へん下手	
祖父母	2	1.4	6	4.4	12	8.7	4	2.9	0	0
父母	5	3.6	18	13.0	43	31.2	4	2.9	1	0.7
きょうだい	13	9.4	12	8.7	14	10.4	1	0.7	1	0.7
おじおば	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.7
おい	0	0	0	0	1	1.1	0	0	0	0
計	20	14.5	36	26.1	70	50.7	9	6.5	3	2.1

表14 Bの5の状況

ピアノ	34	100%
ハモニカ	34	100
木琴	34	100
ヴァイオリン	7	20.7
ウクレレ	1	2.9
ピアノカ	1	2.9
ギター	3	8.8
三味線	1	2.9
クラリネット	1	2.9
琴	1	2.9

は見あたらない。

しいていえば、音楽に興味、関心、理解のある家庭の子女、近親にも音楽の比較的うまいものが多くみられる。

2 音楽を職業とする、音楽学校へ進みたい者が34.8%あった。

音楽を趣味とするもの39.1%であり情操教育を目的とするものが13.0%で音楽学習、つまりピアノ学習の目的は一応、はっきりしている。

そこで前回の報告した論文(第6頁表4)の読譜に関する基礎資料一覧の中より音楽能力の評価が最優秀のものと最劣等のものを特にえらびだし、その番号、氏名、音楽能力評価および注意力テスト得点記録より、総合評価を一覧としたものが表16である。

表16 音楽能力評価一覧

優 秀 群				劣 等 群			
番号	氏名	テスト記録	素質	番号	氏名	テスト記録	素質
1	IN	C	9	3	MS	C	4
8	HH	B	9	10	MT	B	3
9	KM	C	9	15	HK	A	5
16	IS	C	9				

結果および考察

1 現在の資料からでは全体的にはとくに門弟の中には、すぐれた音楽家の家系の子弟

また更に両群のアンケートA、Bにおける

状況を一覽にしてみると表17のごとくその差はあまりなく、わずかに劣群の一部に意欲の顕著な乏しさが散見するにすぎない。これらの事実、読譜に対する注意力を左右

する一つの要因とみてよいのではないかと考えられるが、それにもまして、レッスン時における指導者の強調のしかたにより読譜にたいする注意力も向上すると考えられるのである。

表17 両群のアンケートに対する反応、アンケートAの優群状況

被 験 者 番 号	1	8	9	15
問 1. レッスンをはじめたのはどんな理由か	a	b	a	a
2. 現在レッスンをうけているのはどんな理由か	a	g	a	a
3. ふつうどのくらい練習をしていますか	a	a	a	a
4. 父の音楽に対する理解	c	b	a	b
4. 母の音楽に対する理解	b	b	a	b
5. 先生の注意をどのくらいまもるか	b	b	b	a

表18 アンケートBの優群の状況

被 験 者 番 号	1	8	9	15
問Ⅰの1. 家系で音楽を職業としている人の有無	a	a	a	a
2. 音楽を職業としていないが音楽関係卒業在学	a	a	a	a
3. 専門に修業せぬが非常に得意(好き)の有無	a	a	b	b
4. 家系で特に音楽のきらいな人の有無	a	a	a	a
問Ⅱ 現在レッスンをうけさせている理由	3	3	2	1
問Ⅳ 家にある耐久消費材の数	9	7	10	9

表19 アンケートAの劣群の状況

被 験 者 番 号	3	10	15
問1. レッスンをはじめたのはどんな理由か	c	a	a
2. 現在レッスンを受けているのはどんな理由か	c	a	e
3. ふつうどのくらい練習していますか	a	a	a
4. 父の音楽に対する理解	c	b	c
4. 母の音楽に対する理解	c	b	b
5. 先生の注意をどのくらいまもるか	b	b	b

表20 アンケートBの劣群の状況

被 験 者 番 号	3	10	15
問Ⅰの1. 家系で音楽を職業としている人の有無	a	a	a
2. 音楽を職業としていないが音楽関係卒業、在学	a	a	a
3. 専門に修業していないが非常に得意(好き)の有無	b	a	b
4. 家系で特に音楽のきらいな人の有無	a	a	a
問Ⅱ 現在レッスンをうけさせている理由	7	3	2
問Ⅳ 家にある耐久消費材の数	11	10	10

注) 表17, 18, 19, 20にあらわれる解答の際の記号(a, b...など)の説明は次のとおりである

表17問1の	a	人にすすめられた	問3の	a	毎日やっている
	b	自分でやりたいと思った	問4(父)	a	大へん理解がある
問2の	a	将来音楽を職業としたいから		b	ある
	g	その他の理由		c	ふつう

ピアノ学習における読譜に対する注意力についての一考察（その2）

問4(母)	a	大へん理解がある
	b	ある
問5	a	いつでも心がけている
	b	ときどき忘れる
表18問Iの1	a	いない
2	a	いない
3	a	いない
	b	いる
4	a	いない
問II	1.	将来音楽を職業とさせたいか
	2.	音楽を職業とさせるかどうか分らないが音楽関係の学校へ進ませたい。
	3.	音楽を趣味、教養としてやらせたい
問IV		耐久消費材の数
表19問1	a	人にすゝめられた
	c	友達が習うというので自分もやりたくなった
問2	a	音楽を将来職業としたいから
	c	趣味教養としたいから
	e	落ちつきが出来たり、心が豊かになる
問3	a	毎日やっている
問4	b	ある
	c	ふつう
問5	b	ときどき忘れる
表20問Iの1	a	いない
2	a	いない
3	a	いない
	b	いる
4	a	いない
問II	2	音楽を職業とさせるかどうかは分らないが音楽関係の学校へ進ませたい
	3	趣味、教養としたい
	7	その他
問IV		耐久消費材の家にある数

結 語

本研究では、ピアノ学習者の読譜における心理的なことをとりあつかい、今後、より効果的にその指導計画をたてるために基礎資料として、従来ピアノ学習者が莫大な時間と精力を無駄にしていた状態より脱皮してより合理的な方法を考えて、それぞれ相互の関係を調査してみた。

読譜における不注意の頻発や、夥しい誤謬の連発は、大半の指導者たちを、なやませる大きな問題である。

河の水のごとくおしよせるこれら学習者の(特に初歩の)ぞんざいな読譜は、他の教科と同じように重要に考えていないことから起るものと断定したが、筆者がこの一年の間に注意力をうながす指導をおこなったところ、現在は読譜に関する誤謬は皆無といってよい状態になり、従来は三回のレッスンでやっと矯正された学習者が、第1回で仕上げてくるようになり、少なくとも被験者の学習者には読譜に対する注意力については筆者をなやまさなくなったことを考えあわせると、読譜に対する不注意の問題は指導者の心構えにもよることを発見した。

また学習者もそれぞれ、家庭環境、心構えなど、また指導者の問題もあろうけれども、要は音楽に対する愛と情熱が学習への合理的な努力を生むようになるものである。

これらの仮説については、今度さらに詳細な検討をすすめて行く計画である。

本調査研究にあたり、島根大学音楽教室山本力教授に貴重な助言を賜わり、また島根大学心理学教室西山啓助教授に多大なる御配慮を戴いた。ここに記して深甚の謝意を表する。

参 考 文 献

- 1) 蔵 清蔵  
「ピアノ学習における読譜に対する注意力についての一考察(その1) 島根大学論集第14号 昭和40年2月
- 2) 迫間 明著 「演奏分析学、学習分析学」  
二葉ピアノ研究会 昭和40年1月
- 3) 佐瀬 仁著 「音楽心理学」音楽之友社  
昭和37年6月
- 4) 竹上広子、川原久栄  
「ピアノレッスンに及ぼす要因について」  
京都女子大学初等教育学会 昭和39年6月